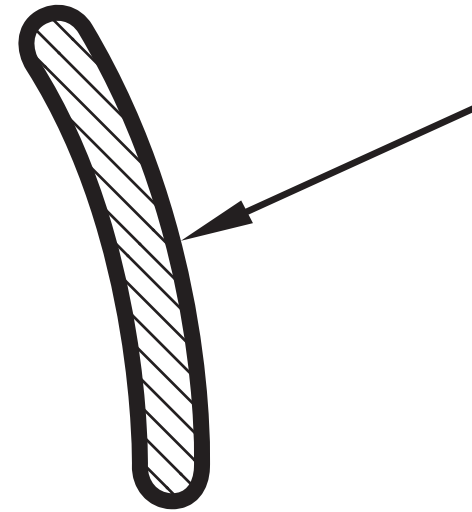
FFR-561SX

石油暖房機

工事用型紙

壁固定金具取付位置

排気口中心

穴あけ位置

穴（直径７～８cm）の中心が
斜線の範囲内にあること。

紙型の下端を床に合わせ、テープ等で壁にとめてご使用ください。穴あけ位置は上記の範囲です。特に筋かいを切らぬよう穴あけ位置をえらんでください。穴位置が決まりましたらきり等で印をつけて型紙をはがしてから、穴をあけてください。
裏面の工事説明書をお読みください。
取扱説明書とともに大事に保管してください。

送油ホース接続口位置

サンポット石油暖房機　FFR-561SX　工事説明書

32400032200
9637

開こん（部品の確認）

- ダンボール箱からストーブを取り出しましたら、ダンボール、テープなどの包装材を取除いてください。
- 附属品として次のものが用意されていますので確認してください。

名称	個数	略図	用途	名称	個数	略図	用途
給排気筒	1		壁又は窓に取付け、給排気に使用します。	抜け止め金具	1		L形排気継手の抜け止めに使用します。
スペーサー	1★		室外フランジと給排気筒の間に使用します。	排気筒断熱カバー	1		L形排気継手にかぶせます。
室外フランジ	1★		外壁・外パッキンと給排気筒・スペーサーの間に使用します。	排気筒固定金具	1		L形排気継手をストーブに固定します。(本体に取付けてあります。)
外パッキン	1★		外壁と室外フランジの間に使用します。	取付ねじ（ボルト）	2		壁固定金具A、Bを固定します。
室内フランジ	1★		給排気筒を壁に固定します。	取付ねじ	1		壁固定金具を固定します。
内パッキン	1★		室内フランジと内壁の間に使用します。	取付ねじ（ステンレス）	3		給排気筒を壁に固定します。
壁固定金具A	1		本体と壁を固定します。(壁側)	コード固定ねじ（ボルト）	1		排気管外れ検知用のコードを抜け止め金具に固定します。
壁固定金具B	1		本体と壁を固定します。(本体側)	取付ねじ	1		室温センサーを壁に固定するときに使用します。
送油ホースバンド	2		ゴム製送油管を固定します。	取扱説明書	1		機器の取扱いについて記載してあります。
給気ホース	1		ストーブ(給気口)と給排気筒(給気口)を接続します。(本体に取付けてあります)	工事説明書（本紙）	1		機器の工事方法について記載してあります。
給気ホースバンド	2		給気ホースを固定します。(1個は本体に取付けてあります)	保証書	1		機器の保証内容について記載してあります。
L形排気継手	1		ストーブ(排気口)と給排気筒(排気口)を接続します。(本体に取付けてあります。)	別冊取扱説明書	1		点検制度について記載してあります。
★印のものは給排気筒に取付けてあります。				所有者票	1		お客様の情報を当社にお知らせ頂くための書面です。

据付け

■据付け場所の選定

①ストーブの据付け場所は、暖房効果のよい丈夫で水平な床面にし、排気筒を屋外に出すのに適した位置をお選びください。
②可燃物との距離は、右図に示す寸法以上に離してください。なお、製品右側は点検、手入れのため30㎝以上離してください。
③製品が囲まれるマントルピースなどへ設置する場合、その内部や周辺は、不燃材料又は準不燃材料あるいは防熱板で仕上げを行ってください。

（マントルピースなどに設置する場合）

- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください。

※右記の設置寸法は、防火性能検査基準に適合・認証されたものです。但し、サービス性、設置性をより良くするために、設置図解寸法での取付けをお願いします。

上方	側方	前方	後方
15㎝	10㎝	100㎝	10㎝

■据付け方法

1.設置場所の確認

- 水平で丈夫な床面に設置してください。
  水平でないと不完全燃焼したり、点火しないことがあります。

2.油タンク（別販品）の組立てと据付け

- 組立て
  添付の組立方法に従ってください。
- 据付け場所
  床置式の油タンクはたたみやじゅうたんなどの上に据付けないでください。
- 器具との距離
  油タンクはストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
  送油管の長さがたりない場合は、規格にあったゴム製送油管を別にご購入ください。
  ゴム製送油管以外（ビニールホースなど）は使用しないでください。
- 器具との落差
  油タンクは、油タンクの油面がストーブ設置床面より30㎝以上2m以内の高さになるように据付けてください。

据付け（つづき）

3.ゴム製送油管の接続

- 接続手順

①ゴム製送油管を油タンクの送油コックの接続部に十分差し込んでバンドで固く締付ける。
②本体の接続部に取付けてあるキャップを外し、ゴム製送油管を十分差し込んでバンドで固く締付ける。

- ゴム製送油管の途中が油タンクの送油コック部より高くならないようにし、空気だまりのないようにしてください。
- **ゴム製送油管の屋外使用禁止**
  ゴム製送油管を屋外で使用すると、き裂が入りやすく危険です。屋外では使用しないでください。
  屋外部分及び埋設部分は銅管（外径8㎜、肉厚0.6㎜）を使用してください。

付属以外の部材（延長）を使用する場合や高地の場合の空気調節

製品に付属されているL型排気継手管以外の部材を使用する場合や高地の場合、燃焼用空気の調節が必要です。

1.製品に付属されているL型排気継手以外の部材を使用する場合
延長設定を下表のように調節してください。

延長条件	L型排気継手1個追加	L型排気継手2個追加	自在管追加	1〜2m延長	3m延長
延長設定	E1	E2	E1	E1	E2

調節方法

- 電源プラグをコンセントに挿し込んでください。

①操作切替スイッチⒶを押したままⒷ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓔのスイッチを順次押してください。表示部にH0E0の表示が出ます。（Hは標高、Eは延長を示します）
②Ⓓの《を押すとE0→E1→E2と上がり、Ⓔの》を押すとE2→E1→E0と下がります。

2.標高が400m以上の場合
高地設定を下記のように調節してください。

据付場所の標高	高地設定
0〜400m未満	H0（設定の必要はありません）
〜600m	H1
〜900m	H2
〜1200m	H3

注）①工場出荷時の設定はH0E0です。
②調節方法が判らなくなった場合、再度電源プラグをコンセントに入れ直し最初から行ってください。

調節方法

- 電源プラグをコンセントに挿し込んでください。

①操作切替スイッチⒶを押したままⒷ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓔのスイッチを順次押してください。表示部にH0E0の表示が出ます。（Hは標高、Eは延長を示します）
②Ⓑの時を押すとH0→H1→H2と上がり、Ⓒの分を押すとH2→H1→H0と下がります。

3.燃焼の確認

点火、Lo燃焼、Hi燃焼、再点火を行い異常がないことを確認してください。
上記設定は目安です。下記の現象の場合は再度調整を行ってください。

①着火が遅い（ガラス越しに白煙が見える）……延長、または高地設定を下げる。（例：E2→E1）
②Hi燃焼時赤火になる。……延長、または高地設定を上げる。（例：E1→E2）

給排気筒（排気筒・ホースなど）の取付け

■変則工事の禁止

次のような工事は、安全性及び性能面に支障をきたし、危険であるため絶対に行わないでください。
1.給排気筒を付けないこと。
2.給排気筒を室内に出すこと。
3.給排気筒を床下や屋根裏などに配管すること。
4.排気筒だけで使用すること。
5.集合煙突に給排気筒を取付けること。

■使用する給排気筒

給排気筒は、ストーブに取付けてあるものか、または当社指定のものを使用してください。

- 基本セット（附属品）

①	給排気筒A
②	給排気筒B
③	スペーサー
④	室外フランジ
⑤	外パッキン
⑥	室内フランジ
⑦	内パッキン
⑧	給気ホース
⑨	ホースバンド（2個）
⑩	L形排気継手
⑪	断熱カバー
⑫	抜け止め金具

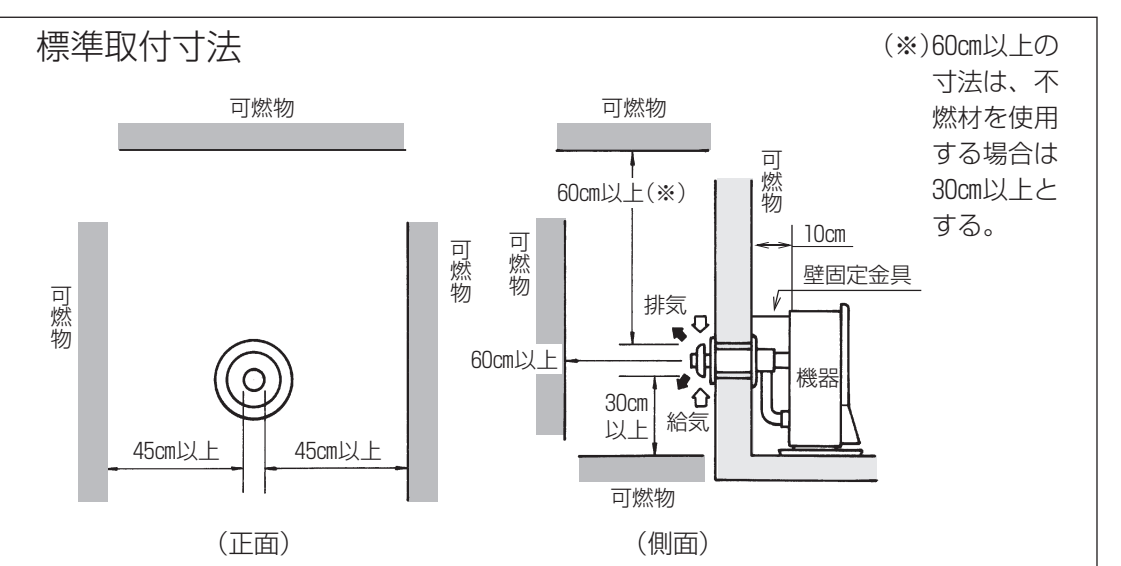
■給排気筒取出し場所の選定

❶給排気筒は、外気に面している壁に取付けてください。
❷雪で給排気筒がうまる場所や、風の吹きだまりの激しい場所に取付けないでください。
❸大きい樹木などの障害物のない場所を選んでください。
❹給排気筒先端の周囲にプロパンガスボンベや石油かんなどの危険物のない場所を選んでください。
❺点火時や消火時に、給排気筒の先端から多少臭気が出ますので、給排気筒取付け場所は、隣近所の迷惑にならないような場所をお選びください。

■給排気筒の取付図と障害物との関係

①上部障害物と給排気筒との距離は60㎝以上必要です。不燃材を使用の場合でも30㎝以上が必要です。
②側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物との間は45㎝以上必要です。
③前方に塀や建物がある場合、給排気筒先端と前方障害物との距離は60㎝以上必要で、かつ上方と両側方に気流を阻害する障害物のないことが必要です。
④給排気筒下面と地面あるいはスラブ面の距離は30㎝以上必要です。
また、積雪面の場合は50㎝以上必要です。
⑤給排気筒は室内から屋外にかけて3°の下り勾配で取り付けてください。

標準取付寸法

（※）60㎝以上の寸法は、不燃材を使用する場合は30㎝以上とする。

- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください（※部は除く）。

給排気筒（排気筒・ホースなど）の取付け（つづき）

■給排気筒の工事方法とその注意（標準取付けの場合）

①裏面の型紙をあてて、穴あけ位置及び壁固定金具取付位置へキリ等で印を付ける。
②印を付けた位置に直径7〜8㎝の穴をあける。

- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りをしてある所に給排気筒を通す時は、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

③印を付けた位置に壁固定金具Aをねじで固定する。

壁の材質により下記のように取り付けてください。

- **木または厚い合板の壁**
  木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属の小ねじで直接固定してください。
- **モルタルまたはコンクリートの壁**
  モルタルまたはコンクリーの壁に固定する場合は、市販のオールプラグを使用してください。
  ねじを締める位置に外径6㎜のドリルで壁に穴をあけオールプラグをハンマーで壁面からでないように打ち込みます。オールプラグを打ち込んだ後にねじを締めてください。
- **石膏ボードまたは薄い合板の壁**
  石膏ボードまたは薄い合板などの中空壁に固定する場合は中空壁用プラグ（市販品）を使用してください。
  ねじを締める位置に中空壁用プラグで指定された穴をあけプラグを差し込んでください。入りにくい場合は、ハンマーで軽くたたいて壁面からでないように打ち込みます。
  中空壁用プラグを差し込んだあとにねじを締めてください。
- **土壁、しっくい壁**
  土壁またはしっくい壁に固定する場合は、壁にそえ木をして附属の小ねじで直接そえ木に固定してください。

コーナーの場合は壁固定金具の角度を曲げて壁に固定してください。

④本体裏側のねじを外し壁固定金具Bをねじで固定する。
⑤壁穴に給排気筒Bを差し込み、「上」の文字が上になるようにして、3本のねじで壁に固定する。

（注意）
壁の中にある断熱材（グラスウール等）が給排気筒に入ると、赤火燃焼の原因となりますので注意してください。

⑥給気ホースの一方を本体の給気口に（あらかじめ本体に取付けてあります）、もう一方を給排気筒の給気口に接続し、ホースバンドで締付ける。
⑦L形排気継手に断熱カバーをかぶせる。
⑧**本体背面についている白いコード（排気筒外れ検知用）の先端を一番短かいねじで附属の抜け止め金具に固定する。誤動作を防止するため、しっかりと締付けてください。**
⑨排気筒外れ検知用の白いコードは、**電源コードをたばねているビニ帯で給気ホースに固定してください。**
⑩本体をずらしながら給排気筒の排気口にL形排気継手を接続し、**抜け止め金具を差し込む。**

（注意）

- **必ず、断熱カバーの下に抜け止め金具を取り付けてください。**
- **排気筒外れ検知用のコードがL形排気継手に触れないようにしてください。**
- **給気筒に排気管を接触させないよう設置してください。**

給排気筒（排気筒・ホースなど）の取付け（つづき）

⑪壁固定金具Aと壁固定金具Bを2本のねじ（ボルト）で固定する。
⑫屋外からスペーサー・室外フランジ（外パッキン含む）をはさむように給排気筒Aを差し込み、外壁に固定する。固定した時「上」の文字が上になるようにする。また、スペーサーと室外フランジの継ぎ部にすき間や段差が無いようにする。
注）附属の外パッキンで壁との密着が完全でなく、雨水が壁内へ入る恐れのある場合は市販のシール剤で室外フランジと壁との間をシールしてください。
シリコン系のシール剤を使用すると、燃焼不良やガラスの白濁の原因となりますので下記シール剤を推奨します。
信越化学工業製：KE4898
トーレ・ダウコーニング・シリコーン製：SE9185
⑬次の3点を確認する。

- 給排気筒Aを屋外から軽く引張り、抜けないこと。
- 給排気筒先端へ向って下がり勾配になっていること。
- 試運転を行い、異常がないこと。

※壁厚が11〜14㎝までは、スペーサーを使用してください。
※壁厚が14〜26㎝の場合は、スペーサーは使用しません。

■給気筒の角度変更

ねじ3本で給気筒の角度が変えられます。
角度を変更する場合は下記に注意しておこなってください。
⑴給気筒にコードがかまれないように注意してください。
⑵給気筒とパッキンに隙間がないことを確認してください。
⑶取り外したねじを必ず使用してください。
10㎜以上の長いねじを使用するとねじがファンに当りファンが回らなくなります。

■延長セットを使用した取付け

基本セットで取付けできない場合は、延長取付けもできます。

- 給排気筒取付け位置は床面より上のこと。
- 延長限界は、排気・給気それぞれ長さ3mまで、曲がりは3ヶ所（本体出口の曲がりは含み、給排気筒内部の曲がりは含まない）以内です。
- 排気筒が床下や天井裏を通らないこと。
- 延長時の排気・給気のそれぞれの長さ・曲がり数は同じにしてください。

■厚壁用給排気筒アダプター（別販品）

基本セットの給排気筒が貫通する壁の厚みは、11〜26㎝です。
26㎝以上の壁を貫通するときは厚壁用給排気筒をお求めください。

給排気筒（排気筒・ホースなど）の点検

取付けが終りましたら、もう一度点検してください。次のような取付けは不完全燃焼を起こす恐れがありますので必ず修正してください。

1. カーテンと給排気筒の接触
   - 排気筒にカーテン等燃えやすいものが接触していませんか。
2. 接続部のゆるみ
   ゆるんでいませんか
3. 必ず屋外へ給排気
4. 可燃壁貫通、接近のときは断熱
   断熱材（グラスウールは不可）
5. 床下排気禁止
6. 給排気筒の傾斜
   下り勾配　上り勾配
7. 曲がり、延長排気筒、給気筒の制限
   - 曲がりが排気、給気それぞれ3ヶ所以下〔本体出口の曲がり含む〕
   - 延長排気、給気それぞれ3m以下
8. 給排気筒先端の障害物
9. 給排気筒先端の危険物
10. 排気管の壁への接近
    排気管直径の20㎜以上　排気管直径の20㎜未満